

## 第52回（令和2年4月）排砂評価委員会評価

令和2年度連携排砂計画（案）及び連携排砂に伴う環境調査計画（案）については、以下の意見を付して了承する。

連携排砂計画（案）については、より自然に近い土砂動態に向けての宇奈月ダム先行操作の試験的な実施に関して効果の検証を行い、次回の排砂評価委員会で報告すること。

環境調査計画（案）については、土砂動態の予測・評価手法の向上や連携排砂に伴う環境影響の把握の観点から、各専門の委員の意見を踏まえ環境調査の適切な実施に努めること。

環境調査項目の合理化については、過去の観測値の解析から一部の観測地点間・項目間で一定の傾向・相関が認められ、合理化後も同知見に基づく推定値で補完できることを確認した。今後も同様の考え方で合理化を図ること。

深海底質調査については、一般項目の分析結果では概ね浅海域と同程度であり、年代測定結果では、各地点とも少なくとも半世紀以上過去の年代から一定の速度で土砂が堆積してきたものと示唆された。また、有機物比(C/N比)の分析結果からは陸上由来の有機物よりも海洋由来有機物の影響が強い事が示唆された。このことから、今回の調査結果を見る限り、連携排砂開始前後で深海における環境への影響は見られなかった。

一方で、各地点で堆積速度に違いが見られたことから、海底地形等による影響かを確認するため、令和2年度も深海底質調査を実施すること。

以上

令和2年4月28日公表